

令和5年度 第2回富山県固定資産評価審議会 議事概要

- 1 日 時 令和6年2月22日(木) 10:28~11:14
2 場 所 富山県民会館 701 会議室
3 出席委員 唐渡委員、服部委員、庵委員、高岡委員、林委員、猿田委員
北濱委員、鬼頭委員(代理:鈴木 富山税務署副署長)、
梅崎委員(代理:柴野 高岡市総務部次長)、
石川委員(代理:地崎 滑川市税務課長)、竹内委員
(11名出席)
<事務局(県地方創生局ワンチームとやま推進室)>
滑川参事、吉田主査、宮田主事、原主事

4 概 要

(1) 挨拶

(2) 議 事

令和6年度の土地(宅地、田、畑及び山林)の提示平均価額(案)について
(事務局より説明)

(3) 審議結果

原案どおり了承された。

<委員からの主な意見、質疑応答>

【県内の地価の動向等について】

○服部委員

地価の動向等については、前回12月に概ね年間の動向をお話したが、その後、1月1日に発生した能登半島地震によって、一部の地域には大きな変化があった。評価の結果が大きく分かれるところとして、地価公示事業や相続税路線価は、価格判定の時点は、1月1日の0時、その日が到来したその瞬間で評価を行うため、今回の地震による影響は受けていないものとしている。地価公示事業の発表は3月の下旬に、相続税の発表は6月の後半から7月頃となるが、この際に、どのような対応をするかは、まだはっきりしていない。過去の例では、東日本大震災のときは、一部発表を控えたところがあった。国の公表時に、今回の内容を受け取る皆様に誤解なく伝わるよう関与していかなければいけないと思っている。

昨年の同時期は、新型コロナウイルス感染拡大の影響をどのように捉えるかに悩まされながら作業をしたが、本年度は通常の生活に戻りつつあり、新型コロナウイルス感染拡大による直接的な変化は落ち着きつつあると認識している。地震を除くと、令和5年の全体の流れは、令和4年と同様に、上昇したところは上昇が続き、下落のところは下落が続く、といった流れかと思う。地域で最も求められている需要を叶えているかというところが、価格の変動に影響しているのではないかと考えている。例えば、住宅地であれば、小学校の校区や宅地の配置が今のニーズかどうかということが挙げられる。

地震の話題に戻るが、富山県内各地で大小様々な被害があり、応急的な復旧により、大部分は通常のインフラが戻りつつある。しかし、液状化した地域などは、地盤面の下の現状はまだ把握が難しく、このようなところが、新たな悩ましいところになる。

以上